



大議発第64号
令和7年12月3日

大江町長 松田清隆 殿

大江町議会議長 宇津江雅人



一般質問について（通知）

来る12月9日からの令和7年第4回大江町議会定例会において、下記のとおり質問がある予定ですので、あらかじめ通知いたします。

記

質問者	質問事項	質問の要旨
菊地邦弘 【一問一答質問】	道の駅おおえの評価をどのように捉えているのか	いうまでもなく、ここ数年一番の課題が人口減少と高齢化である。山形県の人口が100万人を下回った。あらゆる手を尽くしても毎年減少の一途をたどっている状況である。転出者が転入者を上回る「社会動態」に加え、近年は、死亡者が出生者を上回る「自然動態」が拡大している状況になっている。ある統計によると青年男女の3人に1人が結婚しない、夫婦3組の内1組が子どもを持たたくないと答えていいるという。このような状況にある中でも、子育て環境の充実や高齢者が活躍できる機会の提供、DX・AIを活用した社会づくりを推進し、住民ニーズの多様化や地域の課題解決に取り組むべきと考える。子どもたちが誇りに思える笑顔溢れる町、人と自然が調和し、真の豊かさを実感できる大江町の実現に向けて、そして明るい未来へとつないでいくためにも、町長と教育長に所見を聞きたい。 地域経済の活性化の一翼を担うであろうと期待された、新しい道の駅がオープンし1年が経過した。全国各地の道の駅が誕生してから30年経過し、市町村特産農産物等の直売所としては勿論であるが、観光案内の拠点としての複合施設として注目を集めている。一方で現在全国1230以上あるといわれている道の駅の3割が赤字と試算されている。柔軟な発想でイノベーションを起こす取り組み

質問者	質問事項	質問の要旨
		<p>をやっていかなければ難しい時代に突入したと思われ、経営手腕が問われていると言われている。社会的に順応し、経済的な循環を生み出すことが重要ではないかと感じている。施設の存在を知る、楽しみ方を知ることの要素をもう一度考えてみたいものである。大江の魅力は何なのか、新しい道の駅ではこれまでと違い何を改善したか。他の施設に対して自慢したいポイントはどこに置いているのか、グルメは何なのか。経営状況はどうか、満足のいく観光案内としての機能は果たされているだろうか、商品の見せ方はどうなのか、等々新しい道の駅全般について一年経過した評価は、決して順風満帆なものではないと感ずるのは私だけだろうか。</p> <p>町民が学び続けられる環境の醸成、郷土理解を深めるとともに、町外から人を呼び込むきっかけ作りになるような取り組みが必要でないか。一例であるが、道の駅を起点とし歴史文化財に指定している町の名勝地などを巡るツアーを企画してみはどうか。また道の駅と交流ステーションが連携をし、レンタサイクルを置いてはどうか。</p> <p>期待と希望に胸が膨らんだ「道の駅おおえ(コラマガセ)」の施設運営をどのように評価し、賑やかさと交流・関係人口の増加に結び付けていかれるか。忘れてはいけないのが「道の駅は誰のためのものなのか」を考え精査し、前に進むためにも施設全般の運営に対する取り組み方について町長の考えを伺う。</p>
	中学校部活の地域展開をどのように推進するのか	<p>日本の教育制度、義務教育は子供が学校に行く義務が課せられているのではなく、学ぶ権利が保証されているものである。</p> <p>令和 8 年度末をもって町立保育園が閉園し、10 年度には左沢小・本郷東小の統合、その 5 年後には小・中義務教育学校の計画がある中で、地域移行が進められる中学校部活動に関して新たなステージとなる。移行するにあたって、現状を分析し課題を探るとともに教育委員会の対応は、どのように考えているのか。また、スポーツ庁は、来年度から 6 年間「改革実行期間」と定めている。令和 8 年度より次期改革期間がスタートし、原則全ての部活動を地域展開、新たな価値を地域とともに創出、学校から地域へ新たなフィールドへとしている中で次の項目について、本町としてどのような対応策を目指</p>

質問者	質問事項	質問の要旨
		<p>し、部活動の方向性をどのように捉えているのか伺いたい。</p> <p>1.改革を推進していくポイントとして、休日の活動をどのように定着させていくのか。(基盤作り)</p> <p>2.部活動改革について、まだまだ町民に情報が届いていない状況に鑑み、今後の推進策を伺いたい。</p> <p>3.学校の施設の利用に関して、鍵の管理、セキュリティ、活用施設の備品の破損等の対応については、どのように考えているのか。</p> <p>4.個人情報の管理体制の構築、財源の問題、運営資金の確保、ニーズの多様化など、様々な課題にどのように対応するのか。</p> <p>5.活動費、送迎など、保護者の負担が増える。</p> <p>6.市町村の枠を超えた広域的な連携による活動は。</p> <p>7.小学生の保護者に対する説明会等について クラブ活動が充実していくことで、異なる種目を選択したり、スポーツと文化活動を同時に実行できたり、年代関係なく大人も参加したり、新しい形を見出されるよう地域のスポーツ文化活動を目指すと共に、主役は子供たちであり、子供たちがやってみたい、挑戦してみたい、参加者が望む活動を実現できる地域活動の展開が不可欠であり、学校全体が開かれた場所として、中学生だけでなく地域の方も集まりやすいスポーツ文化活動の推進が必要である。</p> <p>拠点としての学校教育施設の利活用が望ましいと考える。そして、まちづくりの一翼を担う地域連携が必要と考えるが、教育長の考えを伺う。</p>
土 田 勲 一 【一問一答質問】	花火大会と最上川の原風景の保護について	<p>花火大会と、大江町を流れる母なる川「最上川の原風景の保護」について提言し町長に伺います。今年も8月15日に大江夏祭り最大のイベント、山形県最古の歴史ある「水郷大江・燈ろう流し花火大会」が開催されました。天候にも恵まれ川の水位は丁度よく燈籠は最後までバランス良く流れ大変良かったと思っております。</p> <p>10 年位前から、百目木の最上川舟唄発祥地碑の前で当大会の花火を観ておられますけれども、大会本部の音声は低く聞こえません。したがいまして、花火提供者と提供者に関わる職員や家族の方々への御礼と感謝の気持ちが伝わらないのでは</p>

質問者	質問事項	質問の要旨
		<p>ないでしょうか。今後も当大会を継続して行く為には提供者の気持ちを理解し、大会を運営して行かなければならないと思っております。</p> <p>音声が届かない要因として観客が大勢集まりますと音声は吸収されますし、舟唄碑脇は県道であり車の往来が多く、エンジンやマフラーの音も発生します。川風は百目木方面から大会本部方面へ吹いていることが大きな要因と思われます。当課題を解消されると、御礼や感謝の気持ちが伝わり提供者数や花火数の増加に繋がるかも知れません。更に、花火設置や打ち上げなどに時間が掛かり間が持たない時に、アナウンスや音楽が流れますと間の解消にもなり“ほっと”するものです。したがいまして来年の課題として、どのような方法でも結構です、舟唄碑まで音声が届く様にすることが必要不可欠で切に望むところであります。</p> <p>花火については昨年同様、日本一公園から打ち上げる3カ所同時打ち上げ花火「スターマイン」は、観客の真上に打ち上げられ“ズドーン”と響く轟音は最高であります。したがって“観客の真上に打ち上げられる花火”をPRの一つに加えても良いのではないかでしょうか。花火大会への「クラウドファンディング」導入について、これまでの経緯については、分かりませんけれども「別枠」として当制度を導入することも、必要な時期に来ているのではないかでしょうか。</p> <p>大江町を流れる母なる川「最上川の原風景の保護」について、我が大江町は「重要文化的景観」「左澤・楯山城史跡」は国から指定を受け昔の原風景を護って行くことが求められています。「日本一公園からの絶景」「旧最上橋」「JR左沢線」「柏瀬」「百目木下流の中州」などに、多くの写真マニアや写真を愛する愛好家の方々が多数訪れています。大江町は良い処ですよねとよくお聞きします。しかし流木が「旧最上橋」のピンヤに引っ掛かっている状況や、百目木下流の中州に流木が打ち上げられている状況が多々あります。「旧最上橋」の補修やピンヤに引っ掛けた流木の処理については、大江町と寒河江市が折半し管理しているものと理解しておりますけれども流木は、いずれ増水により流されるのを待って、そのままにして置くのは景観的観点からしましても、良くないのではない</p>

質問者	質問事項	質問の要旨
		<p>か。「旧最上橋」「柏瀬」「百目木下流の中州」は美しい風景であります。中州については樹木を伐採し砂利を取り除いたとしても、すぐに元に戻りますし中州は永遠に不滅です。大江町としましても昔からの原風景を護って行く立場として見守って行くべきではないでしょうか。中州に打ち上げられた流木の処理については、最上川は1級河川であり「国土交通省」の管轄となっております。したがって「国土交通省」の出先機関であります、東北地方整備局 山形河川国道事務所 寒河江国道維持出張所に向いて頂いて「恒久的」な処理を要請して頂きたいと切に望んでいます。</p> <p>最後に大江町として「原風景を護り美しい町づくり」を推進し、最も重要な山形県の母なる川「最上川」の環境保全に繋がれば幸いです。以上「花火大会」についてと、「最上川の原風景の保護」について提言し町長に伺います。如何でしょうか。</p>
藤野 広美 【一問一答質問】	左沢浮島線左沢～藤田間の歩道早期着手	<p>今年 10 月 24 日に開催された大江・朝日両町議会議員協議会で西村山選出の県議会議員に、地方道促進整備の要望書を次の内容で提出しております。</p> <p>「主要地方道長井大江線、一般県道中山三郷線並びに一般県道左沢浮島線は、沿線住民の普段の生活を支える重要な路線であるとともに、両町の産業・文化・交流活動を支える路線であり、地域を訪れ観光する人たちにとって無くてはならないものとなっています。</p> <p>しかし、各路線の状況は現代の生活行動や安全確保対策面で劣っており、観光スタイルにもそぐわない不便なものとなっています」以下省略します。</p> <p>この要望書の詳細の中に、左沢浮島線左沢～藤田間の歩道 1,500m の早期着手が明記されています。</p> <p>上記要望書の内容を踏まえて質問を行います。昨年 8 月にオープンした「ふくふくパーク」に、春から秋にかけて、小学生が自転車で遊びに行く様子をよく見かけます。</p> <p>下校した小学生が、公園へ遊びに行くために県道左側にある歩道を自転車に乗って行くのですが、歩道が狭いのと上り坂ということもあり、安定感のないこぎ方でとっても危険であると感じました。ま</p>

質問者	質問事項	質問の要旨
		<p>た、自転車は左側通行ということで、帰りは歩道のない道路を通り自宅に帰ります。更に帰りは下りのため加速もされます。</p> <p>加えて、大江交番より少し南に上った所の歩道側溝の蓋が不陸になっているところがあり、転んだ方もいるようで危険です。このことは既に担当課に連絡しております。</p> <p>このような現況から、要望書にあるように安全対策面で極めて危険であるので、早期着手する必要があると強く感じております。</p> <p>これまで県議会に提出している要望書内容を受けて、先般の大江・朝日両町議会議員協議会の時に、県の考え方を県議の方よりお聞きしました。</p> <p>県の現状に対する認識としては、左沢線浮島線左沢～藤田間は、道路の両側に家屋が連坦しており、拡幅を伴う歩道整備には家屋移転による人口流出が懸念されるほか、時間と費用を要するなど、整備に向けて多くの課題があるとしています。そのうえで、今後の予定として県では『大江町において、将来の町づくりの方向性を示した都市計画マスターplanが今年3月に改訂され、この区間の将来像として「片側のみの歩道整備も含めた、現実的かつ早急な実施手法及び都市計画の見直しを検討する」旨記載されていると承知しており、町の考え方について今後話を聞いていきたい』と考えていることです。</p> <p>子どもの自転車の乗り方の危険なことや、歩道側溝の蓋の段差で転んだ方がいるなどを考慮し、事故があつてからでは遅いという思いがあります。また、先程申し上げた県としての今後の予定に、町の考え方について今後話を聞いていきたいとあります。このように県側から言っていただいている今を絶好機と捉え、左沢浮島線左沢～藤田間の歩道早期着手を早急に県へお願ひしていただきたいと思います。</p> <p>町長の決断の考え方をお伺いします。</p>
	5歳児健診の実施予定は	<p>今年4月28日の新聞に、『5歳児健診支援強化』自治体への補助を拡充 発達障害を就学前発見という見出しで記事が掲載されておりました。</p> <p>この健診がいかに大事なのかについて記載されており、『5歳前後は言語能力や社会性が高まる時期に当たり、言語の遅れなどから発達障害の特性</p>

質問者	質問事項	質問の要旨
		<p>を認知しやすく、就学前に適切な支援につなげる狙いがある。医師の確保や健診後の支援体制の構築が課題となる。</p> <p>1歳半と3歳児の健診、小学校入学の半年前ごろに行なわれる「就学時健診」は自治体の義務としているのに対して、入学のおおむね1年以上前に想定される5歳児健診は任意で、23年度に行った自治体は14%にとどまる。子ども家庭庁は28年度までに全国での100%実施を目指す。</p> <p>また、子ども家庭庁が5歳児健診を実施していない自治体に理由を尋ねたところ、「医師の確保が困難」「福祉・教育・医療などの連携によるフォローアップ体制の構築が難しい」といった声が寄せられた』という内容になっております。</p> <p>新聞に掲載されているように、言語の遅れなどから発達障害の特性を認知しやすく、就学前に適切な支援につながると感じます。私の年代が子育てをした頃はこういう事業はありませんでしたので、今の子育て世代の方は子どもの健康状態を就学前に知ることができて、不安なく入学時期を迎えることができる感じます。</p> <p>山形県内の対応状況を調べてみましたが、21市町村が既に実施しているとのことです。</p> <p>更に西村山管内の対応状況について調べてみましたが、次のようになっております。</p> <p>寒河江市は令和7年度から毎月、河北町では令和7年度から2か月毎に、西川町では医師はいないが心理士と職員対応の町独自で以前からやっている、朝日町は令和8年度から実施したいと考えているそうです。</p> <p>大江町では、まだ5歳児健診は実施されていないと思います。そこで次の3点について質問いたします。</p> <p>① どんな理由で実施されていないのか。</p> <p>② 今後実施体制をとる場合は、医師の確保、福祉・教育・医療などの連携によるフォローアップ体制の構築はできるのか。</p> <p>③ どの時期にどのような体制で、健診項目と個人負担金はいくらか。</p> <p>以上をお伺いします。</p>

質問者	質問事項	質問の要旨
大沼清人 【一問一答質問】	町をあげて有害鳥獣駆除対策を積極化すべきでは	<p>本年は連日のごとく熊・イノシシの被害のニュースが報じられている。熊による本年度では9月末時点で、108人の人身被害数(死亡7名)に上る。専門家の解説記事によると、2歳前後の熊に注意すべきであり、被害拡大の遠因は「過疎化・高齢化」であるとのことである。</p> <p>ここ数年の環境変化では、猛暑や台風によるどんぐりの不作による山の食糧事情の影響が大きいとのこと。そのため冬眠前の大量の餌を必要とするこの時期に、里への出没を促進しているとのことです。従来より熊は臆病であり、人との接触を避ける生き物であるが、積極的に人を襲うケースも散見されます。</p> <p>今後我々は、人とのすみわけが行われてきた従来の熊とは違った生き物との認識へ改めなくてならないと感じます。</p> <p>同時にイノシシについても、同様の理由で例年以上に各地区に徘徊しております。特に本郷地区においては「地区で飼っているのでは?」と揶揄されるほどの出没が相次いでおります。</p> <p>これら有害鳥獣の影響は、単に農作物被害にとどまらず、人家や倉庫・家畜等への危害が強く懸念されます。人的被害が発生してからでは取り返しがつかない事態となります。</p> <p>もちろんこれらの被害の回避のため、町民の自助・共助が求められますが、現状はそれを大きく超える事態と私は思います。</p> <p>つきましては、下記の点を伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 上記被害の拡大に対し、町はどのように把握しているのか?また近隣町村と比較し有害鳥獣の捕獲数が低い事をどう評価するのか?(現状分析) 2, 今後執行部は、町独自の対策の他に県や警察・猟友会とどう連携し、その対策をどのように策定しているのか? (各機関との連携と対策・例;緊急銃猟訓練) 3, 各地区の事情や地理的条件等も踏まえ、地区民への対策・注意喚起(自助・共助)と共に公助の在り方について地区民の理解協力が必要と思われる。町や猟友会会員等と、希望する地区民との意見交換会等が必要ではないか? (住民との危機管理共有)

質問者	質問事項	質問の要旨
関野 幸一 【一問一答質問】	本町のイベントの核となる左沢駅前広場(ロータリー)・駐輪場・駐車場整備について	1、駅前でイベントをするために、水回りや電源など整備する必要があると思うが、考えは。 2、イベントをすることで、本町にどれだけの効果、収益がもたらされると考えているか。 3、今後は、左沢駅はもちろん、周辺の施設をどのように利用していくのか、また、利用するための今後の改修を含め改善していくのか考えを聞きたい。
	最上川の堤防工事に、町の要望をどれくらい盛り込んでいるのか	今年になり百目木・川端地区の方々から協力をいただき、本格的に住宅の移転が進んできました。本町としても関係機関との協議をしながら、先般議会またかわまちづくり協議会に大まかではありますが、百目木・川端地区の堤防を含めた周辺の利用構想が示されました。今後は、地区の方や町の考えをどれだけ国に要望、また、認めてもらうか大切なことなので、しっかりと町長の考えを聞きたい。
廣野 秀樹 【一問一答質問】	左沢市街地に融雪溝の整備を	冬期間、左沢地区については、住宅地が密集しており、雪捨て場の確保が、困難な状況です。 豪雪であった、令和3年や令和6年など、歩道と車道の間に雪が高く積まれ、交通安全の観点からも見通しが悪く、人身事故や車両事故など要因となる危険な状態がありました。 このような危険な状況を取り除くためにも対策が必要です。 冬期間市街地で、誰もが住み続けたいと思える、安心なくらしの実現を推進し、整備による快適な住環境を目指すために、さらに、在宅で高齢者も可能な限り住み慣れた地域で生活するための、負担の軽減を図る取り組みが必要です。 豪雪地帯での融雪溝は、生活者の特に高齢者の除雪負担軽減、車道歩道の確保、雪害防止、市街地の除排雪問題解決、長期的には、自治体の除雪費用の削減にもつながるといった多面的な理由からも、極めて必要性の高い公共インフラです。 市街地には、消雪パイプが設置されている道路があります。町道、原町道路にも設置されていますが、積雪量や地下水の状態などで、消雪パイプで処理しきれない量の雪が、車道や歩道に積りますが、町の除排雪のコースから外れています。 たまり続ける雪を車道に出せず、通常の側溝で

質問者	質問事項	質問の要旨
		<p>は処理も難しく、融雪溝があれば、処理しきれない量の雪を、これからも公助に頼らず、地域住民の協働で、効率的に処理できます。</p> <p>さらに、豪雪時など消雪パイプで、処理できない時の「バックアップ」的役割も、担うことができます。</p> <p>現在の融雪溝の設置状況と今後の融雪溝の公共インフラ整備について、伺います。</p>
櫻井和彦 【一問一答質問】	熊被害状況と町独自の対策について	<p>秋から冬に移る季節になり、山道などを走るとだれも手を付けていないオレンジ色のカキの実が至る所で目立ちます。</p> <p>11月4日に山形県が発表した今年4月～9月末までの熊捕獲数は585頭、昨年の同じ時期は284頭なので倍増しています。今年は10月だけでも359頭、昨年10月は15頭と今年がいかに多いかが分かる数字であります。</p> <p>目撃情報は11月9日現在で2257件、昨年は年間で348件でした。</p> <p>人的被害の発生で、内訳としては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キノコ採り中 約30% 2. 山菜採り中 約20% 3. 農作業中 約9% <p>その他 散歩中など普段の生活中に襲われた事例がかなりあります。</p> <p>大江町でのクマの捕獲数が9頭だった時点で隣りの朝日町では46頭と5倍以上の大きな開きがあった。何が原因か、大江町には熊の生息数・個体数が少ないのか。設置している箱罠やくくり罠などの数そのものが少ないのか。町長はどのように見ていてますか。</p> <p>以前 町からのLINEでの熊出没情報でうろ覚えですが「農作業中に熊が発見されました。十分お気を付けください。」のようなニュアンスだったと思います。どこで発見されたのかも分からぬ内容でした。取り方によっては、町のいたるところに熊が出没しているので普段から注意をして暮らしましょうね みたいなのかと…</p> <p>山形市ではクマの目撃情報を基に、写真に目撃した場所を細かにプロットして開示しています。県庁付近を見ても北も南も山沿いは危険とか、この地区は目撃情報が多発しているからなるべく近づかないように</p>

質問者	質問事項	質問の要旨
		<p>しようなどの参考にはかなりなっています。</p> <p>大江町の場合,GoogleMaps で調べて目撃情報が 23 箇所で、本当にこれだけなのかと驚いてしまいます。町ではツアー客を案内するボランティアガイドに熊鈴を貸し出しています。すばらしいことではあります が、でもこれでツアー客を守れるのでしょうか。白田病院付近で目撃されたクマが日本一公園の方向に逃げていった。しかも捕獲されていないままです。根本的な対策を講じていない今まで日本一公園を含めた各所を案内しています。</p> <p>緩衝帯を設ける、電気柵を張り巡らすなどという意見もあります。北海道札幌市に隣接する上ノ国町では 520 万円の予算を組んで 13km の電気柵などの対策を行ったが、被害が拡大し総額が 4400 万円を超えたそうです。</p> <p>本来であれば人間と害獣の住んでいる境に設置すべきものなので民家周辺、畠周辺、公共施設周辺、クマと人間の生活の境目であるすべての山すそに張り巡らす。そう考えれば大江町における総延長はとんでもないこととなります。つまり現実的ではなく、生息数をしっかりと把握して、適正な数になるように個体管理をしていく必要があるということです。</p> <p>実際に大江町にはおおよそ何頭の熊が生息しているのかを把握していますか。</p> <p>全てを殺処分してしまったら絶滅してしまうので、適正数になるようにコントロールするためにも生息数を把握しておく必要があるのです。</p> <p>環境庁が定める絶滅危惧種(レッドリスト)の、絶滅の恐れがある地域個体群(LP)26 集団の中に蝦夷ヒグマとツキノワグマが地域指定で含まれています。たとえばツキノワグマであれば、下北半島、紀伊半島、四国山地、西中国地域、東中国地域の 5 か所で、九州地方では既に絶滅したと言われておりやはり個体管理は必要だと思います。</p> <p>個体管理をするためには猟友会の協力は無くてはならないものです。</p> <p>従前ではマタギと言われる狩猟の専門家以外で、狩猟免許を持ち趣味として狩猟を行っていた方々に有償ボランティアのような形で安価でお願いしていたのですが、現状では見直しの時期に来ていると考えます。</p>

質問者	質問事項	質問の要旨
		<ul style="list-style-type: none"> ・ライフル銃の弾丸 1発 750円前後 ・散弾銃のスラッグ弾 1発 800円～1000円 ・射撃場で10発打って1万円 ・秋に狩猟税を含めて3万円前後支払い ・3年に一度の技能講習で2万円前後の支払い ・銃本体価格 20万円～40万円 ・山道を走行するので4輪駆動車 燃料代高い ・鉄製の箱罠が100kg～200kg設置に5～6人必要 ・捕獲したら臭いで次の熊が近づかなくなるので持ち帰って水洗いをして再設置 ・設置したら連日の見回り、捕獲したら物凄く手間のかかる解体作業。最終的には重機を使って埋設処分。小型のコンボどうやって運ぶ。 ・危険も伴い、北海道では1962年～2024年3月までに熊による死傷者が177人、その内狩猟や駆除の際に熊に反撃された死傷者が66人と最も多のが現実である。会員も高齢化しており会員だけに依存するのは無理がある。 ・若い会員を募集しているが集まらない。 ・狩猟免許が必要、高価な銃を購入しなければならない。銃弾を購入しなければならない。銃と銃弾管理が物凄く大変。射撃場で練習しなければならない。時間も必要。 ・狩猟は単独でやるのではなくグループで実施するので明確な役割分担と信頼関係が必要。 ・ガバメントハンターを増やす ・ガバメントハンターは、主に自治体職員として獣害対策を担う公務員ハンターを言い、狩猟免許を取得して時には銃猟も扱う。 狩猟免許には <ul style="list-style-type: none"> 第一種銃猟免許 (散弾銃 ライフル) 第二種銃猟免許 (空気銃) 罠猟免許 網猟免許 熊やイノシシなどを捕獲駆除するための大口径のライフル銃を扱うには、原則として散弾銃を継続して10年間所持していることが条件となっている。 そのためガバメントハンターを採用しても、現在では銃を使っての危険鳥獣駆除をすぐに行うことができないケースもある事となる。

質問者	質問事項	質問の要旨
		<p>ただし、銃を使わない「罠」を使った捕獲など有効な人材として活用できるのは間違いない。</p> <p>心臓に確実に銃弾を撃ち込み仕留めないと手負いの熊として慣れ回りハンターに危険が及ぶ可能性が高くなる。弾を2発ぶち込んで反撃して襲い掛かってくる。</p> <p>ヒグマは時速50kmで走り、100mを7.2秒で駆け抜ける。パンチ力は2t。300kgの檻を体重400kgの熊が押し倒した事例もある。</p> <p>北海道に生息しているのがヒグマ、本州に生息しているのがツキノワグマ。最近海を泳いで渡る熊が目撃されている。</p> <p>これらもろもろのことを踏まえて、大江町では独自にどのような対策を講じて町民に安全安心な生活を送るようにできるかの考えをうかがいたい。</p> <p>遊佐町では不要果樹伐採費用の追加、捕獲用の罠新規購入、猟友会のパトロール費用対策強化など448万円追加の補正予算として提出する予定です。町単独で行える対策として大いに評価出来るものであり、ほかの市町村でも捕獲した際に上乗せして報奨金を支払うところがでてきてています。</p> <p>加えて、11月17日に緊急銃猟タスクフォースが来庁していますがどのような話になったのかと、県が「山形県熊被害防止策緊急対策の主な事業」を発表したが、それにより我が町にはどのような恩恵が受けられるのかも伺いたい。</p>